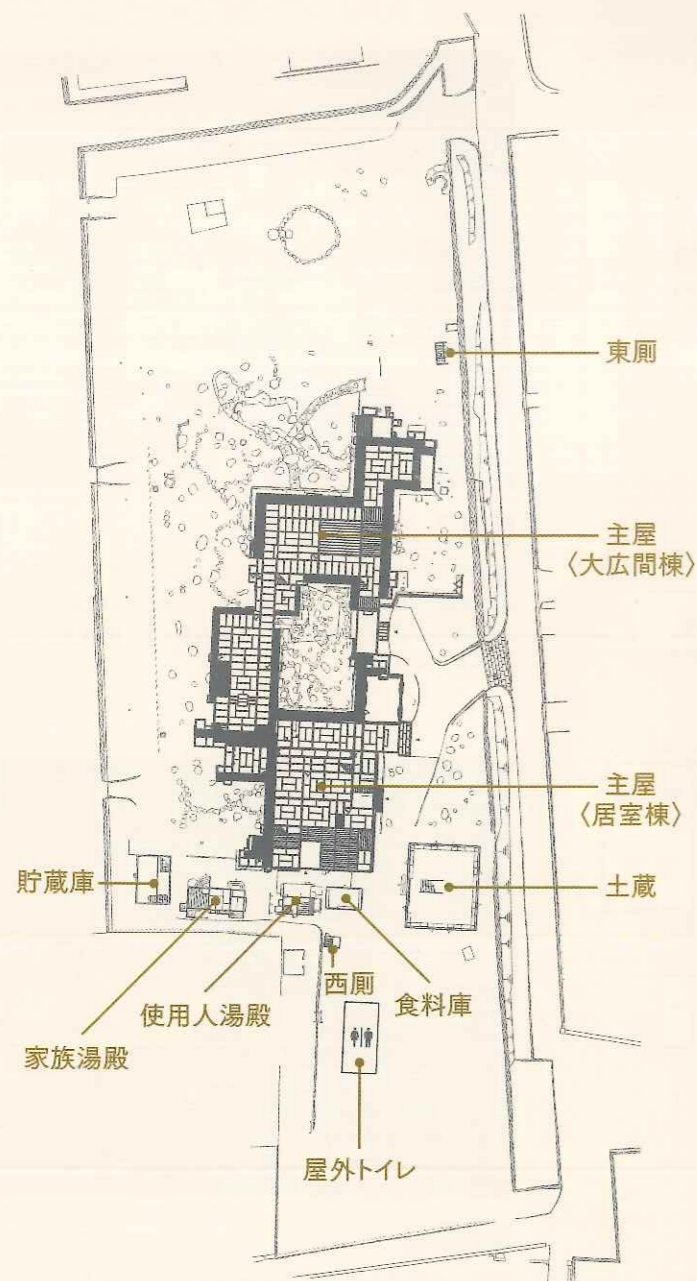


旧高取邸建物配置図



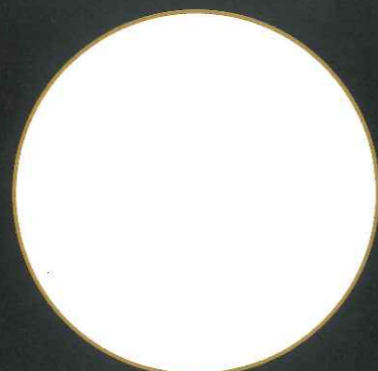
開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
月曜休館(月曜日が祝祭日の場合は開館、翌日休館)

入館料 一般…………… 520円
小・中学生…………… 260円
団体(20名以上)…………… 2割引
音声ガイドシステム利用料…………… 310円

お問合せ 旧高取邸 TEL・FAX:0955-75-0289

アクセス 佐賀県唐津市北城内5番40号
 ■ JR筑肥線「唐津駅」下車徒歩15分
 ■ 大手ロバスセンター下車徒歩8分
 ■ 福岡から呼子方面へ旧高取邸入口右折

駐車場 旧高取邸駐車場をご利用ください。
(入館者は1時間駐車料金無料)



記念スタンプ欄



国指定重要文化財・旧高取家住宅
旧高取邸

旧高取邸について

旧高取邸は、杵島炭鉱などの炭鉱主として知られる高取伊好(たかとりこれよし:1850~1927)の邸宅です。唐津城本丸の西の海岸沿い、約2300坪といわれる広大な敷地に、大きく2棟の建物が建っています。平成6年(1994年)~平成7年(1995年)に国の近代和風建築総合調査でその重要性が確認され、平成10年(1998年)12月に国の重要文化財の指定を受けました。和風を基調としながら洋間を持つなど同時代の邸宅の特色を備える一方、大広間に能舞台を設けるなど独特のつくりになっています。また、杉戸絵、欄間等の意匠にも見どころが多いのが特徴です。

■高取伊好(たかとりこれよし)氏略歴

- 嘉永3年(1850年) 多久藩士鶴田家の三男として生まれ、9歳で姉の嫁ぎ先である高取家の養子となり家督を相続。
- 明治3年(1870年) 上京し、英学塾を経て翌年慶応義塾に入塾。
- 明治5年(1872年) 工部省鉱山寮に入寮し鉱山学を学ぶ。
- 明治7年(1874年) 高島炭鉱に入り、大隈重信、岩崎弥太郎らの知遇を得る。
- 明治15年(1882年) 退社。
- 明治18年(1885年) 独立し、数々の炭鉱を開いて石炭産業をリードする。また、教育・文化関係にも多大な貢献をし、正六位に叙せられる。
- 昭和2年(1927年) 逝去。



「旧高取邸」邸内見取図

音声ガイド設置箇所
 ■ 数字は建物の解説
 ■ 数字は建物の美術意匠の解説



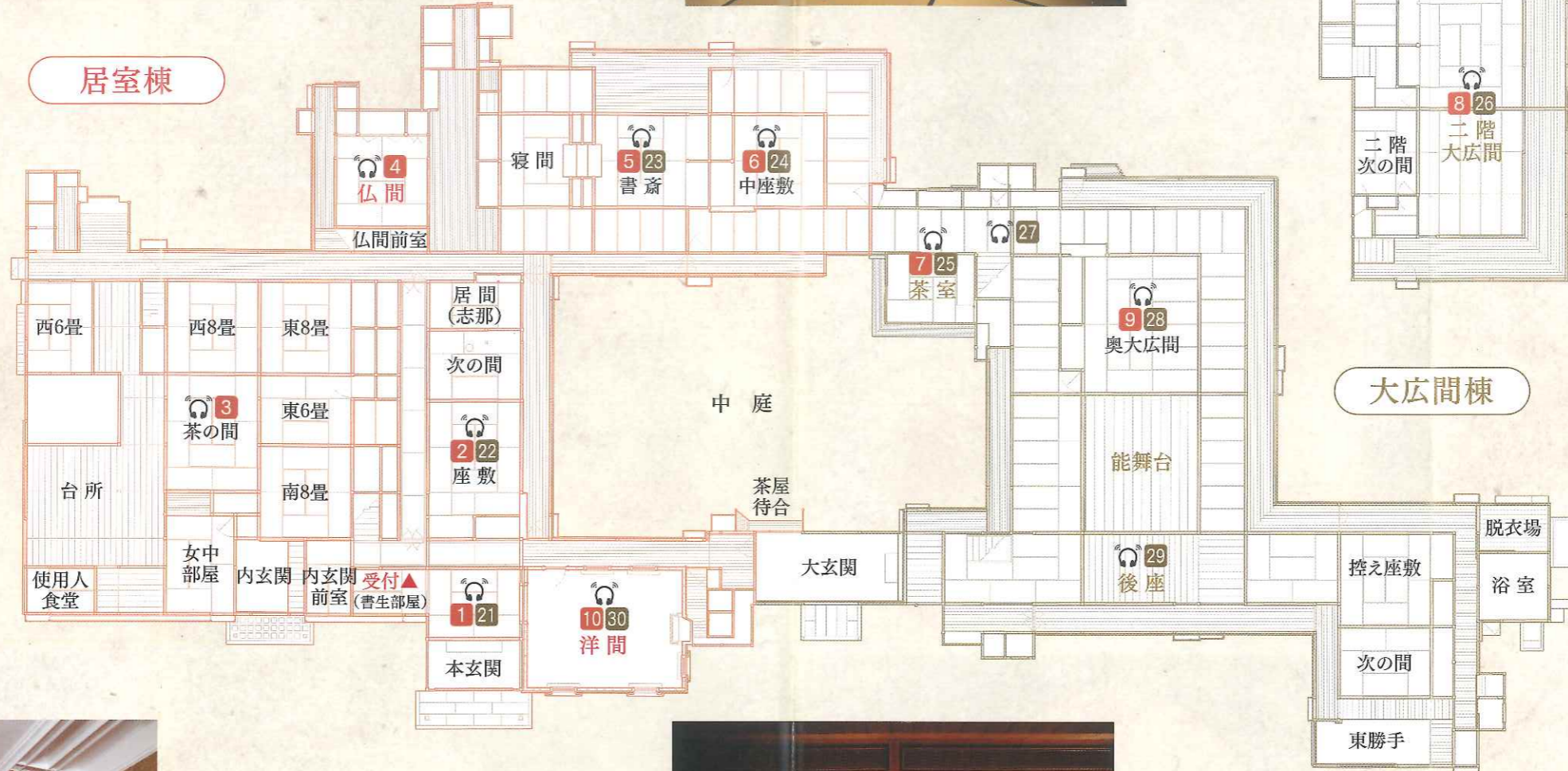
7 25 茶室「松風庵」

東側に畳床、中庭に面した南側に丸窓、西側ににじり口を設けた茶室「松風庵」。天井は網代天井で、南～西側に廻らせた濡れ縁には「なぐり」とよばれる装飾が施されています。



4 仏間

床は他の部屋よりも一段高く、天井は折上格天井、東側の壁には花頭窓が造られています。部屋奥には、総漆塗り観音開きの扉をもつ荘厳な仏壇が造り付けられています。



8 26 二階大広間

接客空間である、大広間棟の2階にある15畳2間。2室の境には、孔雀と芥子の図柄が描かれた美しい欄間があります。北側の古い格子窓越しに、唐津湾が一望できます。



10 30 洋間

漆喰天井からはアールヌーボー調のシャンデリアが下がり、紙貼りの壁、上げ下げ窓、絨毯敷の室内には暖炉を備えるなど、近代を象徴する洋風の室内となっています。



29 後座

能舞台の「老松」の鏡板裏手にあたる空間。正式な能舞台として設える際には、敷居ごと鏡板を外すことで、この位置まで舞台として使用することができるようになっています。



能舞台

座敷に仕組まれた能舞台が現存するのは、国内でも極めて稀な例です。畳を敷くと、北側の広間と合わせて30畳の大広間としても使えるように工夫されています。